

みんなの“人権”が尊重される  
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 56

発行：  
人権啓発指導員  
【大楠 茂美】



朝倉町生涯学習センター北入口の花だんの様子

なご いろど  
心とお桜から、彩り豊かな草花  
・新緑の季節にバトンタッチ…!!

早朝、肌寒く感じることもありますが、  
日中は夏日(25℃～)になることも…。  
今年度も、小学校や保育所(園)・幼稚園を対象に、人権の花(ひまわり)栽培活動を通して、心豊かな人権感覚

を育(はぐく)む取り組みが始まります。…

ねらい

- ひまわりの(種) → (花) → (種)の成長から、生命(いのち)の不思議さ、かけがえのない生命の大切さに、**気づき・考え・行動する**、機会になれば…!!
- 栽培活動を通して、育てる喜びや協力の大切さ、地域の人たち(人権擁護委員さん等)の見守りやサポートなどを**知る**、機会になれば…!!

2023(令和5)年度

人権の花(ひまわり)栽培活動【福岡法務局朝倉支局主催】に取り組む小学校

- 三輪小学校(3年生 132名)
- 金川小学校(3年生 24名)
- 秋月小学校(3、4年生 31名)
- 朝倉東小学校(3年生 25名)

ニコニコ広がる! ひまわりの花栽培活動【人権セ事業】に取り組む保育所(園)・幼稚園

【東峰村】①

- 美星保育所

【筑前町】②

- 篠隈保育所
- アイグラン保育園朝日

【朝倉市】⑦

- 黄金川保育所
- 志和保育所
- 立石保育所
- 生い立つ保育所

- 馬田保育所
- ひろにわ保育所
- 甘木双葉幼稚園

上記のように、朝倉地区の小学校では4校、保育所(園)・幼稚園では10施設において、ひまわりの花栽培活動にご協力いただきます。

『ひまわり』と子どもたち、どんな出会いや気づきがあるでしょうか。とっても楽しみです!!





昨年10月から、少しずつ通い始めた母親のデイサービス生活。あれから半年を過ぎた、今では…

昨年、『懸け橋(No.52)』に掲載して、半年が経ちました。96歳で旅立った父(伴侶)のことをなかなか受容できずにいた母親。「今日もおらん!どこに行ったと…?」「何したらいいか分からん!」と言い続ける母親が、いろんな人たちとのかかわりができるデイサービスに通い始めて半年。…今では「みんな、よくしてくれる」「楽しい」と、週2回の午後2時間程から、今では週3回の終日、楽しい`時間`を過ごすことが、母親にとって自然な一週間の流れに…。「今日は行く日?」と待ち遠しいようです。

お風呂に入るのが、とても苦手(億劫)だったのに、「気持ちいいですよ」との言葉かけや足湯をきっかけに、「昼食前に身体をきれいにして、すっきりしてからご飯を食べましょう!」と、根気強くかかわっていただき、今ではデイサービスで、お風呂にも入れるように…。(背中も洗ってもらっていると…!!)

自宅では、なかなか入らなかった(→本人は、入っているつもり?)のに、「先に入る?」とお風呂を促しながら、本人の選択(先に入るか、後に入るか…)に任せる言葉かけを続けていると、ある日、突然、母から「お風呂あがったよ!」「気持ちいいよ。早く入らんね!」と、逆に、私が言われてしまって…!!



`ウィズ・コロナ`の難しい時代にあって、健康・安全第一に、通所される人たち同士の「かかわり合い」を大切にされながら、`人が人として生きる(生き合う)`、一日一日を楽しく(→互いに生きがいを感じながら)、今日という`かけがえのない時間(とき)`を過ごせるよう、室内のゲートボールや、送迎バスでの春の散策、習字、折り紙…など、いろんな趣向を工夫されたり、毎月行われる誕生会など、本当に頭が下がるばかりです。…そして、連絡帳には、デイサービスでの母の様子(体調や周りの人たちとのかかわり、入浴の有無、がんばり)など、目に浮かぶような記載が…!!



「親は`最期`に、老いるということについて、自らの姿を通して、子どもに繋いでいる。」とも言われます。両親の老いと向き合う歩みは、自らの限りある生命(いのち)と真摯に向き合う歩みでもあること、否応なく考えさせられている、一日一日なんだと思います。…

その根っこには、誰もが、『**人としての尊厳を大切にされて生きる(生き合う)かけがえのない生命(いのち)**』

であることを考えずにはられません。こうした視点から、今後も、同和問題をはじめ様々な人権課題解決に向け、身近な生活から振り返っていきましょう。

みんなの“人権”が尊重される  
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 57

発行：  
人権啓発指導員  
【大楠 茂美】

朝倉町生涯学習センター北玄関横の花だんに、今年も、ひまわりの種を、まきました。来週始めには、ひまわりの芽が、顔を出してくれることでしょう。☀️

今年も、ひまわりの花が咲く頃には、思わず私たちも、笑顔がこぼれることでしょう。とってもいのち、楽しみです!!

そして、新たな生命(⇄種)の誕生! 繰り返される生命の営みの中で、ひまわりの種一つ一つの、生命の不思議さやたくましさ、かけがえのない生命の大切さについて、改めて考えさせられます。



入口付近や正面玄関には、プランターにも種をまきました〜

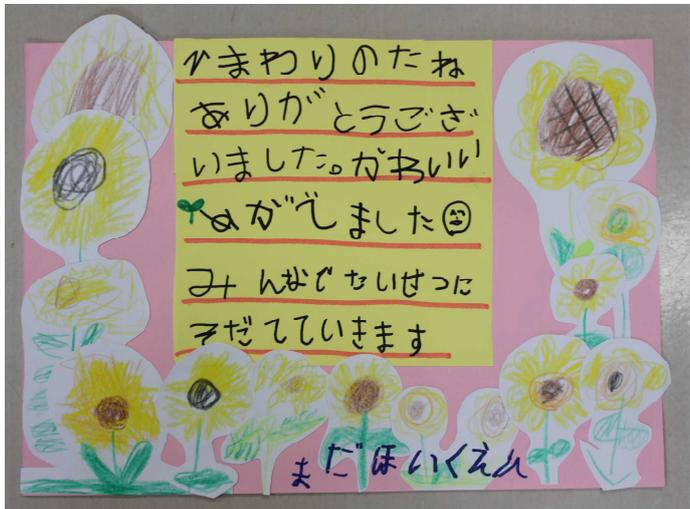


馬田保育園に行ってきました!!

今年、ニコニコひろがる!ひまわりの花運動を取り組む保育所(園)、幼稚園7施設の『開会式』に参加しました。始めに、「ひまわりさん」「おおきくなるってことは」のお話をさせていただいた後、園児さんたちがみんな協力

して培養土をプランターに入れて、小さな手のひらに配られた、一粒一粒の種をまき、「大きくな〜れ!」とつぶやきながら、土を優しくかぶせていました。

紹介させてもらっているのは、馬田保育園での様子です。…帰りがけに、藤田園長先生から、「さっきの様子を撮ったので…」と写真をいただきました。また、園児さんから、思いもかけなかったメッセージが…! ひまわりを通じて、心がほっこりする“出会い”でした。





ひまわりの話の最後に、これからひまわりのお世話をしていく中で、「私たちとひまわりさんの同じところって何だろう？」…気づいたら教えてと話してみると、ある園児さんから、「いのち!!」という大きな声が返ってきました。

種 → 花 → 新しい種 → と、生命<sup>いのち</sup>が繋がっていくヒマワリの花と、自分たちの生命のつながりが重なっていたのでしょうか!?

これから栽培活動に取り組んでいく中、友だちと一緒に水やりをしながら、「ワー芽が出た!」「枯れたけど新しい種がいっぱい!」という姿を自らが感じ、誰にも代わることができない一人一人の大切な生命のことと、考え合わせるきっかけにしてもらえたなら…と、思わずにはいられませんでした。

『互いが認め合い、助け合いのデイサービス』  
で、人として大切にされ生き合う姿から…

週三回通うデイサービス。母は、いつもの送迎バスで16時過ぎ自宅へ…。ドアを降りるなり、笑顔がこぼれ、「お疲れ様。また今度!!」と職員の人に声をかけられ、同乗されている人たちからも手を振られての、いつもの穏やかな帰宅の日々…。



「よかったね!」と出迎えながらも、日に日に、老いを感じる母のことが頭をよぎります。…食事の量が減ってきたこと(薬の影響? 夏バテ? 高齢から?)や、ついさっきの出来事が抜け落ち、否定的な心の持ちようが多くなっていること等、『不安』がうずまく(?)母親の、心持ちに寄り添ってと思うのですが、裏腹に…。

前号(懸け橋No.56)の最後に、「親は<sup>さいご</sup>最期に、老いるということについて、自らの姿を通して、子どもに繋いでいる」…と書きましたが、自らも歳を重ねて、両親の生き様と向き合う中で、「自分は、限りある生命をどう生きるんだろう?」といったことと向き合う時間を与えてもらっているような気がします。そして、…



その根っこにある、誰でもが『人としての尊厳を、大切にされて生きる、(生き合う)かけがえのない生命(いのち)』なんだということを、改めて、考えずにはいられません。

今、母は、「何をしたらいいか分からん」と言いつつ、デイサービスでの関わりを心地よく感じながら、もうすぐ一周忌を迎える準備(亡き夫のお参りへのお礼状)を、手書きで数十枚書き続けています。一番心が落ち着いていて、亡き夫のことを自然に受け入れる言葉が出てきます。「人は人として互いに認め合えることで、あるがままの自分で、限りある、かけがえのない人生を感受できるのでは…」と感じています。

みんなの“人権”が尊重される  
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 58

発行：  
人権啓発指導員  
【大楠 茂美】

早朝、数年ぶり…に、  
スロー・ジョギング

「おはようございます。」  
「お久しぶりですね。…」

以前、よく出会っていた  
ご夫婦と挨拶ができて、  
とても清々(すがすが)しい、  
一日になりました…!!



自宅近くの田んぼや佐田川付近で、早朝、スロー・ジョギングの途中、本当に久しぶりにお会いできたご夫婦が、近づいてくる私に気づかれ、立ち止まって…

■元気に、しとったあ？ 久しぶり!!

■大雨は、大丈夫やったね？ またね…!!

と、話しかけてくれました。同じ散歩仲間のような顔見知り程度で、どなたかも知らないのですが、「今も、散歩されているだろうか？」と思いながら走っていると、偶然にも前の方からお二人が…! 数年ぶりのジョギングでの再会。「久しぶりに会えた!」「今も元気に散歩されてる!」そんな嬉しいような、ちょっと気恥(きは)ずかしいような、心もち、でした。



~『袖振り(ふれ、すり)合うも、多生(他生)の縁』~

…調べてみると、この言葉には、偶然のようであっても、何らかの縁があつての`出会い、`という意味があるようですが、この時は、誰もがみんな、人として`幸せに生きていきたい!`と願い、各々の人生を`精一杯生きて(生かされて)いる一人一人なんだ!`という思いが…。それが、ここで言う`縁、`につながっていくのでしょうか?

私も、あと数年で70歳。それぞれの節目では、長く感じられた`時間、`も、振り返ってみれば、あっと間の…`時間、`だったと思える年齢になってみて、改めて、`生きる(⇨生かされる)、`ということや、`残された時間、`について、考えることが多くなりました。

そのきっかけは、昨年7月、父を見送って一周忌を迎え、今、歳を重ねる母の`姿、`を通して…でした。



16~7才で少年飛行兵に志願。終戦後シベリアに抑留よくりゆうされ、復員後は実家を離れるなど、戦争に翻弄ほんろうされ、昭和28年6月には、筑後川の水害に見舞われる中で、母と一緒に力を合わせ、96年間の人生を駆け抜けた父…。

8人兄弟姉妹の長女として、農作業の手伝いや兄弟姉妹の世話等に追われ、女子挺身隊ていしんたい（戦時中の勤労奉仕団体で、主に、未婚女性が工場等での勤労働員に従事した。）で青春時代を過ごし、長女を見送り、（私の）病気を支え、93歳の今を生きている母…。



両親がみせてくれる（くれた）生き様いきさまや最期さいごの贈り物おくものは、「自らの生き方を振り返り、これからをどう生きるか？」という道標みちしるべだ…と感じています。

…誰であれ、歳を重ねれば、身体機能や認知等の変化が生じる中で、高齢者が、笑顔あふれる毎日を過ごせるような「**（みんなに）優しい社会**」の実現は、高齢者はもとより、「私」や次世代の子どもたちの幸せにもつながっていくことでしょう!!

しかし、現実には、老々介護ろうろうかいごや8050問題★（80才代の親が、50才代の子を支える。）等が報じられます。また、「年寄り」だから…と高齢者を疎外したり、同じ人間としての尊厳を軽視して虐待（介護等の放任、放棄【ネグレクト】等）したりする問題、高齢者をねらった悪徳商法・オレオレ詐欺等も横行し、少子化問題と合わせて、年々、大きな社会問題に…!!

この高齢者問題は、高齢者を取り巻く『安心して暮らせる環境づくり』とともに、他人ごとじゃなく、「私」自身の問題であり、誰もが向き合う問題!!…だと再認識することが大切なんだと思います。決して、後回しにできない『人権問題』です。

誰もが生き生きと暮らせるキーワード ⇨ 『**人権の共存**（他者の人権を正しく理解し、相互に尊重し合う）』

私たちの身の回りには、高齢者問題以外にも、部落差別（同和問題）をはじめ、女性、こども、障がいのある人、外国人、性的少数者、犯罪被害者、HIV感染者、ハンセン病患者・元患者とその家族、拉致被害者等への問題やコロナ差別…、近年、益々深刻化しているインターネット上の人権侵害など様々な人権問題が、今もなお、解決されずに残っています。そうした中であって、今、NHKで放送中の「らんまん」■牧野富太郎さんの言葉が、とても心に残りました…

『**雑草**』という 草はない

どの草花にも 必ず…

その 一つ 一つに 名前が あり

そこで 生きる 理由がある

この世に 咲く 意味がある

朝ドラ「らんまん」 植物学者（牧野富太郎さん）